

「文学のまち大津」 ブランディング強化事業について

文化振興課

(1) 背景

- ・ 令和6年大河ドラマ『光る君へ』の放送を契機に、大津の文学的魅力への注目が上昇している。
- ・ 大津は『源氏物語』のほか、俳句・かるた・百人一首など、多彩な文学資源が存在し、今村翔吾氏や宮島未奈氏などの現代作家も在住している。
- ・ これらの資源は、市民の誇りや愛着の源であると同時に、観光・教育・まちづくりなど多方面への展開が可能な大きなポテンシャルを秘めている。

(2) 事業の概要

- ・ 5本柱（ブランディング戦略の策定、イベントの企画・実施、協議会の運営、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟に向けた専門家連携、プロモーションの実施）で推進する。
- ・ 豊かな文学・歴史文化資源を整理・活用し、市民とともに再発見・共有していく取組とする。
- ・ イベントやプロモーション、国際的ネットワークとの連携を通じて、「文学のまち大津」としての魅力を市内外に発信する。
- ・ 令和7年度は、市民アンケートや協議会などを通じて、今後5年（R8～R12）のブランド推進ロードマップを策定する。

(3) 目指す方向性

- ・ 市民が「文学のまち大津」であることを身近に感じ、自らのまちに誇りと愛着を持てるようにする。
- ・ 「文学のまち大津」の知名度と価値を向上させ、その先に2027年ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）文学分野での加盟を目指す。

(※) ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）とは

2004年に創設された、国際ネットワークで、クラフト&フォークアート、デザイン、映画、食文化、文学、メディアアート、音楽、建築という8つの分野で構成される。世界の加盟都市は現在約350都市に上り、文学分野では53都市が加盟している。日本では11都市（うち文学分野では岡山市）が加盟している。

背景～大津にある文学資源～

松尾芭蕉 俳句



松尾芭蕉
『おくのほそ道』『幻住庵記』など
大津市内に墓所あり
近江蕉門(芭蕉の門人)

—古典から現代まで受け継がれる文学の系譜—

『源氏物語』



紫式部
『源氏物語』『紫式部日記』など
石山寺で『源氏物語』の着想を得る



天智天皇
『万葉集』など所収 近江神宮主祭神



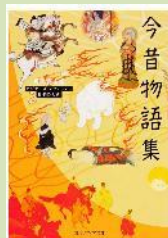
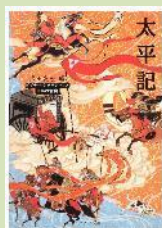
柿本人麻呂
三十六歌仙
『万葉集』など所収

『万葉集』



蝉丸
『後撰和歌集』所収

仏教説話 軍記物



宮島未奈
大津市
在住



今村翔吾
大津市
在住



風良ゆう
大津市
出身



花登 筐
大津市
出身



横光利一
大津市で幼少
期を過ごす

『百人一首』 競技カルタ

予算（委託費）：1,815万円 実施期間：令和7年度～令和8年度
委託事業者：(株)地域計画建築研究所（アルパック）

① ブランディング戦略の策定

市民アンケートやヒアリングで市民の意識・ニーズを把握し、専門家の助言を受けながら、「文学のまち大津」推進ロードマップを策定し、施策の方向性を明確化する。

② イベントの企画・実施

文学まち歩きや朗読会など、市民や地域団体等と連携したイベントを実施し、幅広い世代が文学を楽しめる機会を提供することで、シビックプライドの醸成とまちの賑わい創出を図る。

③ 協議会の運営

市民、団体等が参画する「文学のまち大津推進協議会」を設置し、意見交換や進捗確認を通じて、市民参画型のブランディングを推進する。

④ ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）加盟に向けた取組

専門家の助言を受け、ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）加盟に向けた体制づくりと国際的ネットワーク形成を推進する。

⑤ プロモーションの実施

ロゴや動画を活用し、HPやSNS等の広報媒体で発信する。市民向けの浸透と同時に、国内外へのPRを強化し、大津の文学的ブランド価値を高める。

全体スケジュール

	令和7年度	令和8年度
ブランディング 戦略の策定	戦略策定 8月～10月 市民アンケート調査 3月末までに 戦略ロードマップ完成	フォーラム等を通じた周知
イベントの企画・実施	★ 11月15日 湖都の葉マルシェ (商工労働政策課) イベント	委託事業(1,815万円)とは別に予算要求予定
協議会の運営	11月 第1回協議会 1月 第2回協議会 3月 第3回協議会	7月 第4回協議会 2月 第5回協議会
UCCN加盟に向けた取組	随時 相談	★ 6月頃 UCCN加盟のためのフォーラムを予定 ★ 12月 申請書提出予定 新規加盟認定可否は令和9年秋頃見込
プロモーション の実施	8月～9月 ロゴ制作 9月～翌年8月 ショート動画の公募・制作	

(1) 市民アンケート

- ・ 目的：市民の認知・関心・愛着を数値化し、ブランド推進ロードマップ作成に活用
- ・ 方法：対象3,000人（無作為抽出、郵送＋ネット併用）
- ・ スケジュール：9月発送 → 10月回収完了予定

(2) ロゴ

- ・ 採用予定案（現時点でのイメージ）
- ・ 活用方針：
 - ・ 市の印刷物（ポスター・パンフレット等）
 - ・ HP・SNSでの情報発信
 - ・ 協議会活動やイベント等での使用
- ・ スケジュール：11/15の湖都の葉マルシェに向けて準備を進めている



湖都の葉マルシェについて(産業観光部)

事業概要

令和7年11月15日 (10時～15時)

場所

目的・意義

- ① **作家・クリエイターが活躍できる**
作家・クリエイターが表現できる場を提供することで文学活動を後押しする。また、他の作家・クリエイターや市民団体との交流や連携のきっかけとなる。
- ② **将来の作家・クリエイターの掘り起こし・育成**
市民が様々な文学作品や作家・クリエイターの活動に触れることで、市民自らが将来の作家・クリエイターとなる動機づけとなる。
- ③ **文学ファンの創出**
文学への関心が低い市民が文学の魅力に気づき、文学に親しみをもつきっかけとなる。
- ④ **「文学のまち大津」を市内外に発信する**
文学にゆかりが深いまちであることを市内外に広くPRして、シビックプライドの醸成を図る。
- ⑤ **地域の賑わい創出**
商店街事業者と連携し、イベント会場を含む中心市街地の賑わい創出を図る。

コンテンツ

作品展示・即売会、大津の文学PRブース、本の譲渡会、飲食ブース 等

実行委員体制 (公民連携)

(一社)大津市商店街連盟、(公社)びわ湖大津観光協会、
(株)まちづくり大津、大津市商工労働政策課・文化振興課・図書館
事務局：商工労働政策課

スケジュール

7月 出店者募集開始
8月 出店者募集締切
10月 当日スケジュール、コンテンツ確定
11月 イベント開催

●メイン

コンテンツ

なぎさ公園おまつり広場・修景緑地 (屋外)

文学作品即売会、大津の文学PRブース、作品の展示・本の譲渡会、飲食ブース

●サテライト

コンテンツ

大津百町館、ギャラリーQ (ナカマチ商店街周辺)

作品の展示・本の読み聞かせ 等

●雨天時

(主) 旧大津公会堂 等



大津百町館



ギャラリーQ



曳山展示館

「文学のまち大津」に関する協議会等、体系図・イメージ（案）

市民とともに「文学のまち大津」の輪を広げ、機運醸成を図る。

新設

「文学のまち大津」推進協議会

発展

大津の文学イベント実行委員会

事務局： 商工労働政策課

委員：（一社）大津市商店街連盟
（公社）びわ湖大津観光協会
（株）まちづくり大津
大津市立図書館



大津あきのた会
電車と青春21文字プロジェクト

事務局

大津市市民部文化振興課

アルパック（委託事業者による支援）

文化全般・文化振興計画に関する合議体

湖都文化推進審議会

文化振興計画の意見答申・諮問機関

委員長： 小嶋 善通（成安造形大学学長）

委員： 中根 庸介（滋賀大学教育学系准教授）
音羽 菊寿寿（大津市文化連盟会長）
金子 博美（びわ湖大津観光協会副会長）
角間 利昭（しがぎん経済文化センター）
中井 洋子（大津市青少年育成市民会議副会長）
今井 竜（公募市民）

湖都文化庁内推進本部

文化振興計画の進捗管理など

本部長： 市民部長
副本部長： 市民部次長

本部員メンバー 政策調整部次長
健康福祉部次長
こども未来部次長
産業観光部次長
環境部次長
都市計画部次長
教委・教育部次長

専門部会
立ち上げ

庁内連携体制

新設

文学のまち大津 ワーキングチーム

（湖都文化推進本部会議の専門部会）

「文学のまち大津」に関する
所属の職員（推薦）で構成